Ｂ･Ｃグループ

コミュニケーション能力育成のための「書くこと」の授業の推進

　韮崎工業高等学校　国語科

**（１）課題の内容**

　本年度の学習指導計画に基づき、１・2年次の国語総合および３年次の国語表現において「書くこと」の授業を実践した。工業高校である本校は毎年約７割の生徒が就職を希望しているが、企業側は「コミュニケーション能力」のある人材を求めている。異年齢の方とのコミュニケーションを図るうえでは、場面に応じた言葉遣いができること、的確に思いを理解したり表現したりすることなどが求められる。よって、３年間を見通し系統的かつ段階的に「書くこと」の指導を行い、「コミュニケーション能力」の育成に努めている。

**（２）課題改善に向けた具体的な取組**

　例年、１・２年次は、夏休みの課題の一環で読書感想文に取り組んでいる。ここ数年、書き方指導を年間計画に組み込み実践したことで、段落構成の仕方、表現の工夫など抵抗なくできる生徒が増えてきた。そこで今年は課題図書から自由図書に変え、各自の興味や関心に応じて本を選定することとした。また、2年次での、新聞を用いて気になった話題についての意見文を書くという実践では、修学旅行事前学習と重なったこともあり、首里城消失の記事から文化財を火災から守ることに関しての意見文を書いた作品が多かった。いずれも、発表や表彰、新聞への投稿を行った。３年生では、中学校の先生に近況報告の手紙を書くという実践を行った。通信文ごとの特徴を考えることに始まり、手紙の形式の学習、自分のこれまでの生活を振り返り報告したい内容をまとめること、ふさわしい表現を選定して書くまでを系統的に指導した。

**（３）取組の成果とその要因**

　「書くこと」の実践に関しては、評価に難しさを感じていた。しかし、指導主事から「評価ポイントを絞る」というアドバイスをいただいたことで、多少その問題点が解消できたように感じる。数多くの作品を事細かに添削するには多くの時間が必要になるが、手紙の形式について理解している、敬語表現が正しく用いられているなど、評価ポイントを絞り込むことは、効率的に評価することにつながった。何より、授業者がその時間の学習のめあてを明確にするという授業改善にもつながった。。発表や表彰、新聞への投稿は生徒の自信となり、さらなる意欲の向上を促す。その自信や意欲が異年齢の方とのコミュニケーションに不可欠なのではないかと思われる。

**（４）取組の中で感じられた課題と考えられる原因**

　以上のように「書くこと」に抵抗は少なくなっているものの、慣用句やことわざが身についていないなど、語彙や表現力の乏しさは否めない。これまでの読書経験の多寡、ＳＮＳでのコミュニケーションの現状などは変えていくことは難しいが、今後も、年間指導計画に従い、自国の言葉を大切にする態度や国語の美しさに感動する心を育む授業を行っていきたい。

**（５）（４）で感じられた課題に向けての改善策（案）**

　読書離れの解消に向け、図書館での授業を増やしていきたい。さらに、伝統的な言語文化に関する事項として、百人一首に親しむことや、俳句・川柳を作って投稿することなども取り組んでいきたい。新学習指導要領への移行がスムーズに行われるよう「現代の国語」「言語文化」など必修科目の概要についても認識を深めていきたい。